

令和4年度第2回 和泉市公共交通利用活性化プロジェクト委員会 議事要旨

<議事概要>

【会議概要】

- ・日 時：令和4年11月16日(水)10:00~11:30
- ・場 所：和泉市コミュニティセンター1階大集会室
- ・欠席者：青野委員、井元委員

【次第】

1. あいさつ
2. 委員紹介
3. 議案
 - 1) 槇尾校区公共交通・通学バス路線の検討について
4. 報告案件
 - 1) オレンジバス運行見直しの検討状況について
 - 2) 公共交通チラシ「和泉市公共交通利用のすすめ」について
5. その他

【議事概要】

1. あいさつ

森吉委員長：本日は開催にあたり公私多忙の中での出席に感謝申し上げます。また、日頃の公共交通行政をはじめ市政全般へのご協力に感謝申し上げます。さて近年、人口減少や運転手不足等によって全国的に山間地域における公共交通の維持が大きな課題となっている。本市においても全国と同様の事例が顕在化しており、新たな技術の導入を視野に交通事業者と連携し、通学や買い物等の移動を支える公共交通を確保していくことが必要な状況にある。

本日は槇尾校区の公共交通・通学バス路線の検討をご議論いただくので、委員各位には本市の公共交通の活性化に向けて忌憚ない議論をお願いしたい。

2. 委員紹介

(省略)

3. 議案

1) 槇尾校区公共交通・通学バス路線の検討について

(事務局より資料P1、2を説明)

伊勢副委員長：事務局からの説明について意見や質問はあるか。

藤間委員：校区外からの特認生の通学バスはどの方面から運行するのか。

西村委員：和泉府中方面、光明台方面からの2ルートを想定している。現在の南横山小学校の特認生より児童生徒が増えるので、児童生徒の居住分布をみて利用しやすい通学バスとなるように詳細を決めていきたい。

藤間委員：通学バスが運行することで路線バスに影響が生じないのか。

西村委員：通学バスの運行内容や運行台数が決まった段階で交通事業者と調整したい。

居石委員：通学バスの概略を教えてほしい。

西村委員：路線バスとは異なり、和泉府中から3台、光明台から2台の運行を予定しており、利用する児童の座席を確保したい。

岩橋委員：乗降場所や停留所10m駐停車禁止の対応はどのように考えているのか。

西村委員：児童生徒の分布によってルート変更の可能性はあるものの現行ルートの踏襲を想定している。現時点では駅への乗り入れは考えていないが、学校開校準備委員会の通学バス検討部会で議論しながら決めていきたい。停留所については関係機関と調整し、適切な場所にバス停を設置したい。

関戸委員：榎尾山ルートもデマンドに切り替えるとのことだったが、施福寺や登山客のニーズと合致するのか。観光客がデマンド交通を利用している事例があれば教えてほしい。

事務局：現在の登山客はオレンジバスのダイヤに合わせて計画的に移動しているので、周知を進めることでデマンド交通に切り替わっても大きな混乱はないと思っている。また、デマンド交通となることで時間制約の緩和等が見込まれ、利便性が高まるとも思っている。観光客がデマンド交通を使う事例としては、神奈川県宮ヶ瀬湖周辺や岐阜県瑞浪市で取り組まれている。

伊勢副委員長：観光利用の結果等はあるのか。

事務局：神奈川県は実証運行中であり、現時点では結果はわからない。

伊勢副委員長：今回、既存公共交通を活用した通学を検討していたが、結果としては地域や保護者の強い意向によってスクールバスとなった。これによって和泉市の公共交通にとってはマイナスになる面があることは否めないと思う。スクールバスを導入することによって、将来的な公共交通の維持に支障をきたす可能性があることを地元は理解していると認識してよいか。

事務局：ご理解いただいている。

伊勢副委員長：和泉市規模の都市では山間部の公共交通路線が撤退することを対岸の火事という感覚で見えていたと思うが、現実になる可能性はある。

岩佐委員：先ほど、デマンド交通の導入によって榎尾山への移動の利便性があがるということであったが、あくまでも空車があるときに限る話である。車両が埋まっている場合、乗車できないケースも考えられ、必ずしも全てを対応できるわけではない。デマンド交通及び定時定路線のメリットとデメリットを鑑みて議論の深堀が必要かと思う。

事務局：観光利用が多い時期は定時で運行するなど、地域の移動状況と合わせて柔軟に対応したいと考えている。

伊勢副委員長：デマンド交通の導入に伴って人流が変化すると思われる。モニタリングを行い、適宜、利便性向上につながる対応を考えてほしい。本日の議案について大きな指摘はなかった。ご承認いただいたと思ってよいか。

－異議なし－

伊勢副委員長：事務局においては、慎重に計画的に事業を進めてほしい。では、報告案件に進む。

4. 報告案件

1) オレンジバス運行見直しの検討状況について

(事務局より資料 P3～12 を説明)

伊勢副委員長：1点確認したいが、資料には利用する車両をワゴンタイプの8人乗りと15人乗りが示されているがどちらが正しいのか。

事務局：現時点では15人乗りを想定しており、今後、観光利用を含めて車両内の改装の必要性などを検討する予定でいる。

伊勢副委員長：現行のオレンジバスはいつまで運行するのか。

事務局：令和6年3月まで運行する予定でいる。デマンド交通は令和6年2～3月に実証運行、令和6年4月から本格運行の予定である。

伊勢副委員長：実証運行後、すぐ本格運行の流れとなっているが、実証運行における効果検証はせずに本格運行とするのか。

事務局：オレンジバスの車両は走行距離40万キロを超えており、更新期に差し掛かっている。財政的な問題も含めて、選択肢として実証運行と同時に廃止する可能性もある。実証運行の結果を踏まえ、本格導入時の運行内容を精査するとともに、本格運行後も適宜見直して運行したい。

伊勢副委員長：資料8頁には乗降ポイント案が示されているのが、今後、地元等との話し合いの中でどのように決めていくのか。

事務局：既存バス停留所+αで考えている。周辺の交通状況を考慮し、交通事業者や警察の意見を聞いて決めいきたい。現在、地元には最大60程度になるように投げかけており、その返答を踏まえて精査する。

伊勢副委員長：事務局には、実証運行の結果を踏まえ、本格運行への移行判断するための評価指標を考えてほしいと思う。また、細かな事業実施スケジュールも示してほしい。利用者の移動特性を把握することは重要であるので利用状況のデータはしっかりとっていただきたい。乗降ポイントが既存路線バスの停留所と近接しているようにも思うので、路線バスとの競合の視点も重要である。そのほかに意見が無いようなので、市内公共交通について意見や要望等

があればご発言いただきたい。

脇田委員：北部の高齢者はバスの知識が乏しい。バスの乗り方や乗り継ぎ等を教えていただく機会を提供してほしい。また、先日タクシーを予約しようとしたときに予約料金があるといわれた。

芝辻委員：予約料金を設けている会社とそうでない会社があり、連絡したタクシー会社は予約料金を設けている会社と思われる。また、タクシーも公共交通であり、免許返納割引や妊婦用のサービス等を行っているので、移動の選択肢の一つとしてタクシーがあることをご理解いただきたい。配布されているチラシ（公共交通利用のすすめ）にはタクシーのことが全く記載されていないため、残念である。

岩佐委員：先ほどの脇田委員からバスの乗り継ぎが分からないとのご意見を聞き、周知不足であると反省している。南海バスHPでは目的地までの移動をわかりやすく案内している。ただ、インターネットに不慣れな場合、利用方法がわからないと思うので、営業所までご連絡いただければ、可能な範囲で案内させていただく。また、和泉市の地域公共交通総合マップもわかりやすくまとまっているので、一度ご覧になっていただければと思う。

脇田委員：時刻表の存在は認知しているが、高齢になると読み解けないので困っている。

岩佐委員：それであれば、時刻表をもって営業所に来ていただければ、可能な範囲で時刻表の見方等をご案内させていただくことも可能である。

伊勢副委員長：報告案件2を飛ばしていた。事務局から説明してほしい。

2) 公共交通チラシ「和泉市公共交通利用のすすめ」について

事務局からチラシを説明

伊勢副委員長：先ほどの芝辻委員からのご指摘いただいたとおり、チラシにはタクシーについての記載を入れてほしい。また、公共交通総合マップも改訂の際にはタクシーをいれてほしいと思う。海外では定額で市内公共交通を自由に利用できる仕組みがある。和泉市においても公共交通の利用を進めていくのであれば、鉄道やバス、タクシーの連携が必要になると思う。また、先ほどの槇尾校区の議論に戻って恐縮ではあるが、通学バスを要望する理由には路線バス通学していたら乗客から怒鳴られる可能性がある等の意見があったが、一度、保護者の方に路線バス通学を体験いただき、学校や保護者がサポートしながら公共交通で通学する可能性についても議論できればよかったように感じた。

関戸委員：周遊観光バスについてであるが、リニューアルオープンした「道の駅いずみ山愛の里」に停留所を追加した。1日乗車券の購入でソフトクリームが無料となるので、利用してほしい。

森吉委員長：槇尾校区の路線バスの検討についてであるが、前回の委員会までは公共交通を

活用した通学として議論を進めてきたが、南横山地区からは通学バスを導入してほしいとの強い要望があった。今後、人口減少に伴い公共交通の利用が減っていくことが想定される中、公共交通を活用した通学利用は利用増の効果が見込めたため残念な思いもある。地域にはさらに利用が少なくなれば、バス存続も危ぶまれることを伝えたく、今回の結果となった。当面は本日提示した内容で進めることになったが、今後、見直しが生じた場合は路線バスや維持バスの活用が最優先であることを改めて示していきたい。先ほどのチラシについてであるが、市として市民や来訪者にタクシーを含め様々な公共交通モードが運行されていることを周知し、利用促進に努めていきたい。

事務局：今後、乗降調査を実施し3月の委員会において結果をお示ししたい。

伊勢副委員長：その他、意見が無いようであるので、進行を事務局にお返りする。

5. 閉 会

事務局：本日は長時間にわたり熱心に議論いただき、感謝申し上げます。これにて本日の活性化プロジェクト委員会を閉会する。

以上

【会議の様子】

